

一般会計

歳出 249億8,550万円 (19年度比-3.8%)

市民一人当たりに使ったお金に換算すると・・・ **47万6,732円**

※20年度末住民基本台帳人口52,410人で算出

民生費(±0.0%)	53億1,500万円	21.3%
公債費(+3.4%)	49億744万円	
総務費(-24.3%)	33億7,831万円	19.6%
教育費(+4.0%)	24億1,198万円	
農林水産業費(-9.5%)	20億9,411万円	13.5%
土木費(+13.3%)	19億6,435万円	
衛生費(+1.9%)	18億7,992万円	9.6%
消防費(-10.8%)	8億6,551万円	
商工費(+6.5%)	6億4,195万円	7.5%
議会費、災害復旧費 労働費、諸支出金 (-6.3%)	15億2,693万円	

()内は、対19年度比



歳出

中央リサイクルセンター建設

▲衛生費=2億8,073万円、21年8月から不燃ゴミと資源ゴミの受け入れを開始しています



小中学校体育館の耐震工事

▲教育費=2億6,513万円、倭文・北阿万・灘小学校の体育館と沼島中学校の体育館を耐震改修しました(写真は、灘小学校体育館)



結婚促進・縁結び事業 ハッピーマジック事業

▲民生費=70万円、縁結び相談や出会いの場を提供し、結婚第1号が誕生。その後、計6件の結婚(内、現在婚約中2件)が成立しています

指標	南あわじ市		早期健全化基準	財政再生基準
	20年度	19年度		
実質赤字比率 (普通会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	-	12.73	20.00
連結実質赤字比率 (全ての会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	-	17.73	40.00
実質公債費比率 (借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度を見る比率)	20.6	19.9	25.0	35.0
将来負担比率 (市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度を見る比率)	244.2	245.5	350.0	-

※赤字が生じない場合は、「-」と表示

指標	南あわじ市		経営健全化基準	備考
	20年度	19年度		
資金不足比率 (企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度を見る比率)	-	-	25.0	会計毎に算定

※資金不足が生じない場合は、「-」と表示

20年度は「ふるさと新発見」として新しい可能性を見いだす年と位置づけ、しっかりと行財政改革を進めながらも、さまざまな事業に取り組みました。資源循環型のまちづくりとして、中央リサイクルセンターを建設、資源ごみのリサイクル率向上を推進しました。子育て支援としては、児童保育を1か所拡充し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の仕事と子育ての両立を支援しました。また、防災対策として、倭文・北阿万・灘小学校体育館及び沼島中学校体育館の地震補強工事を行い、小中学校耐震化100%を達成しました。市の借金である「市債」は、後世代への負担軽減を図るため、借入額を最小限に抑え、約4億円の繰上償還を実施、前年より約16億7000万円の残高減少に努めました。また、市の貯金にあたる「基金」は、歳出を抑え、歳入を確保することで取り崩しの抑制に努めました。残高は、前年と比べ、約4億2000万円増加しました。

平成20年度 決算状況報告

図財政課 ☎50-3033

20年度の一般会計の決算額は、歳入257億3,382万円、歳出249億8,550万円で、21年度への繰越財源2億2,933万円を差し引き、5億1,899万円の黒字となりました。ただし、歳入の中には前年度からの繰越金や財政調整基金の取り崩しによる補てん分などを含んでいるため、それらを除くと2億6,227万円の黒字となります。

歳入 257億3,382万円 (19年度比-2.6%)

32.7%	地方交付税(+7.0%)	84億65万円
	市税(+0.6%)	63億142万円
	市債(-44.9%)	24億150万円
	国庫支出金(+88.2%)	23億4,555万円
	県支出金(-7.1%)	16億2,885万円
	繰入金(+5.8%)	12億4,190万円
	諸収入(+64.4%)	9億77万円
	使用料・手数料(-18.6%)	6億1,391万円
	その他(-23.5%)	18億9,927万円
	()内は、対19年度比	

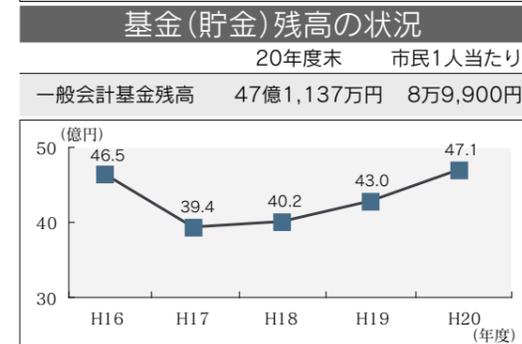
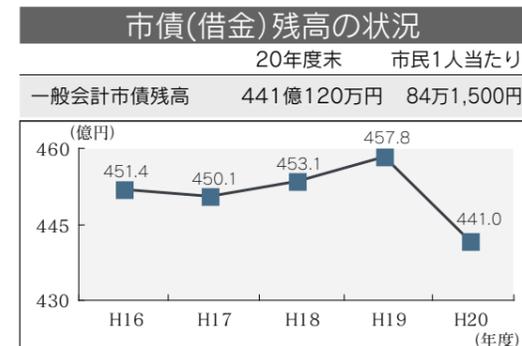
この決算状況を「月収30万円の家計」に例えると...

収入		支出	
給与	30万円 (+1万6,600円)	食費(人件費、退職金含む)	7万5,400円 (+1,000円)
うち基本給(市税など)	24万8,100円 (+9,600円)	医療費(扶助費)	3万8,000円 (-500円)
諸手当(特別地方交付税、使用料など)	5万1,900円 (+7,000円)	ローンの返済(公債費)	8万100円 (+2,700円)
前月からの繰越金(繰越金)	7,700円 (-8,000円)	光熱水費や通信費など(物件費)	4万5,900円 (-4,100円)
親からの援助(国・県支出金)	6万6,000円 (+1万6,300円)	家・車・電化製品の修理や買換え(維持補修費、普通建設事業費)	5万1,500円 (-3万900円)
銀行からの借入(市債)	3万9,900円 (-3万2,500円)	交際費・子どもへの仕送り(補助費、繰入金など)	10万3,500円 (+1万7,100円)
貯金の取り崩し(基金繰入金)	1万3,900円 (-3,900円)	貯金(積立金)	2万800円 (-1,600円)
計	42万7,500円 (-1万1,500円)	計	41万5,200円 (-1万6,300円)

この家計が多いと、一般家庭のエンゲル係数が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。

毎月の出費が約43万円。月収30万円では足りません。不足分を親からの援助や銀行からの借入、貯金の取り崩しでまかっています。

来月への繰越金 1万2,300円(+4,800円)



市税の納付状況

区分	20年度末	市民1人当たり
市民税	22億7,572万円	4万3,400円
固定資産税	34億9,448万円	6万6,700円
軽自動車税	1億6,061万円	3,000円
市たばこ税	3億2,936万円	6,300円
入湯税	4,125万円	800円
合計	63億142万円	12万200円



定額給付金 子育て応援特別手当

▲国庫支出金=7億9,316万円、市内に特設会場を設置し、短期間で全世帯の約93%に現金を給付しました